

## 捨てたもんじゃない！今時の若者達

東日本大震災から1年が経過しました。しかし、被災地では今なお本格的な復興にはほど遠い状況に置かれています。また、日本経済は、円高、原油高などによって依然として厳しい状況が続いており、若者達もまた就職難など、その置かれている状況は決して明るいものではありません。しかし、こうした中でも、日本の若者達は決して将来に悲観してはいないようです。

これは、日本経済新聞社が被災地（福島、宮城、岩手の3県）を含む全国の大学生、高校生を対象に行ったアンケート調査の結果から見てきた、今時の若者達の姿の一端です。

それでは、調査結果の幾つかを紹介しましょう。

まず、震災後の日本は良い方向に向かっているか聞いたところ、

	被災3県	3県を除く
良い方向に向かっている	35.5%	27.7%
悪い方向に向かっている	22.5%	27.0%
わからない	42.0%	45.3%

という結果でした。

私は、東日本大震災の被害の大きさに暗然とすると共に、今なお、本格復興の道筋さえ見えないことに苛立っています。しかも、福島第一原発事故によって、故郷に足を踏み入れることさえできない方々も多くいらっしゃいます。

このように、先の見通しが全く付かない中でのアンケート調査ですから、日本が今どこに向かっているか聞かれても分からないというのが正直なところでしょう。にもかかわらず、被災地では35.5%もの若者達が明るい未来を想像しているのは凄いことです。

日本は今、政治も経済も混迷の度を深めています。それでも若者達は、日本を見限ってはいないということです。頼もしいとは思いませんか。

次に、震災を機にどのような日本にしたいか聞いたところ、

	被災3県	3県を除く
環境技術で世界をリードする	46.5%	53.6%

文化を大事にする	26.0%	24.7%
経済成長を追求する	24.5%	16.7%

という結果でした。

省エネなど環境技術で世界に貢献する日本を目指すべきだと考えている若者達が、際だって多いことは注目に値します。

以前のように経済成長一本槍ではない、低成長でも文化を大事にする日本、そして、新しい技術で世界に貢献する日本を目指すというのは、世界の中での日本の立つ位置をしっかりと考えているということだと思います。

次に、震災は将来の進路についての考え方に影響を与えたか聞いたところ

	被災3県	3県を除く
与えた	60.0%	40.3%
与えていない	40.0%	59.7%

という結果でした。

被災地では6割の若者達が、将来の進路に対する考え方に影響を与えたと回答しています。

重ねて、それでは、どんな影響を与えられたかについて聞いたところ

	被災3県	3県を除く
人のために役に立ちたい	72.4%	74.4%
国のために役に立ちたい	6.7%	6.6%
幻滅したので海外に出たい	1.7%	6.6%
好きなように生きる	6.7%	4.1%

という結果でした。

東日本大震災は、我が国に余りにも大きな災禍をもたらしましたが、同時に、誰しもが、人生について考え、本当に大切なものは何なのか改めて考える契機ともなりました。

若者達も、被災地の人々の助け合いながら苦難を乗り越えようとしている姿を通して、絆の大切さを実感したのではないのでしょうか。それが、7割もの若者達の「人のために役に立ちたい」という思いに繋がっているのだと思います。

「覇気がない」、「何事にも消極的」などなど、今時の若者達に対してとかく辛口の世の中ではありますが、なかなかどうして捨てたものではありません。むしろ、こんな日本を作ってきた大人達の方が、これからどうするのと問われていると受け止めるべきでしょう。(塾頭 吉田 洋一)